

**事業名:ミャンマーにおける消化器がんの腫瘍外科チーム育成事業**

**実施主体:富士フィルム株式会社**

**対象国:ミャンマー**

**対象医療技術等:**以下の①から⑤にあてはまるものを具体的に記載して下さい(複数可)①医療技術、医療機器・医薬品 ②医療施設におけるマネジメント・人材開発 ③医療制度 ④注目を集めつつある国際課題

①内視鏡検査 腹腔鏡手術 ②チーム医療 クリニカルパス

### 事業の背景

・ミャンマーの死因のうち、がんが占める割合、中でも消化器がんによる死亡は増加している。ミャンマーでは、専門医の育成、内視鏡検査及び腹腔鏡手術の確立と普及が望まれており、また、クリニカルパスを含めた周術期管理、医師や看護師が連携するチーム医療の整備も課題となっている。当社は昨年度より神奈川県立がんセンター、医療法人石井会と共に、ミャンマーでの医療技術普及に関する研修への継続的なサポート要請を受けた。

### 事業の目的

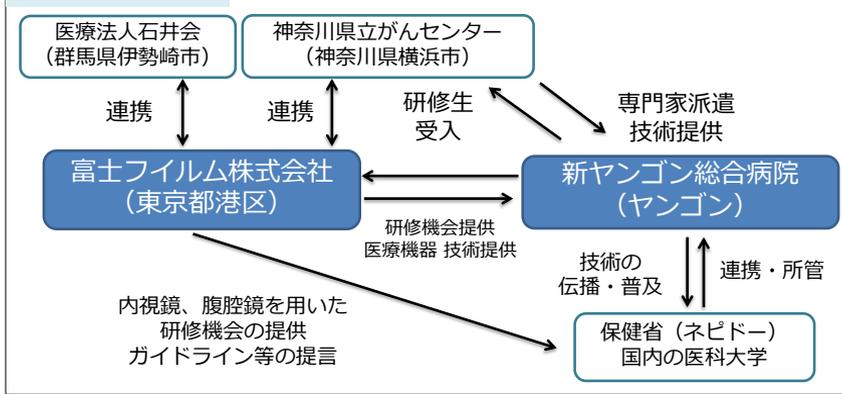
・当社はミャンマーを含むASEAN地域において外科ビジネスに本格参入を予定しており、このためには内視鏡検査、腹腔鏡手術、周術期管理を含めたチーム医療が現地に定着することが重要である。今回連携機関と協働して、ミャンマーでの消化器がんに対する治療体制の普及と整備、国内の消化器がんでの死亡率低下を目指す。

富士フィルム株式会社です。今回ミャンマーにおいて消化器がんの腫瘍外科チーム育成事業を実施致しましたので御報告致します。

本事業の背景として、ミャンマーでは近年消化器がんによる死亡が増加傾向にあります。一方で、内視鏡検査及び腹腔鏡手術の専門医は大変不足しております。また、このような専門性の高い医療を提供するにあたり看護師などコメディカルと連携する周術期のチーム医療の整備も遅れています。そのような中で、当社は昨年度よりミャンマーでの医療技術普及に関する研修への継続的なサポートの要請を受けております。

今回当社は、協力機関の神奈川県立がんセンター、医療法人石井会とともに、ミャンマーでの内視鏡検査、腹腔鏡手術、周術期管理を含めたチーム医療の定着のための腫瘍外科チーム育成事業を行うことで、当社の内視鏡機器、腹腔鏡機器のミャンマーでの普及率を増加させ、国内の消化器がんでの死亡率を低下させることを目的としました。

## 実施体制



## 研修目標

- ・消化器内視鏡を用いて病変を診断するための最新の技術を理解する。
- ・腹腔鏡手術を安全かつ低侵襲に行い術後機能を温存することができる。
- ・周術期管理に関する腫瘍外科チームを作り的確な医療を提供する。

本事業の実施体制ですが、当社はミャンマー・シンガポール法人と連携し、内視鏡、腹腔鏡システムの機器提供を中心とした全体管理を行いました。専門家派遣、研修生受け入れなどの技術移転は神奈川県立がんセンターに依頼し、現地や日本での研修の企画運営は、医療法人石井会と協力をして取り組みました。

この実施体制でミャンマーヤンゴン市にある新ヤンゴン総合病院 (NYGH) で研修を行いました。昨年度まで実施した内視鏡診断、腹腔鏡手術の基本的な知識と技術に加え、今年度は、最新の技術を搭載した当社の内視鏡で病変を診断し、また腹腔鏡システムを用いて安全に術後機能を温存できる手技を、理解習得することを目標としました。さらに腫瘍外科チームを作り、新しい治療を受けた患者さまの周術期に、的確なチーム医療を提供することも目標に加えました。

(変更前)

## 1年間の事業内容

Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan	Feb
★  キックオフ ミーティング		★  ハンズオン トレーニング	★  受入研修		★  ハンズオン トレーニング		★  ハンズオン トレーニング



(変更後)

Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan	Feb
	★  キックオフ ミーティング	●  オンライン用 機材発注	★  オンライン ワークショップ	●  学会参加	★●  オンライン ワークショップ  学会参加	●  現地学会等々 の機材サポート	★  オンライン ワークショップ

★:講演等研修イベント ●:その他イベント

1年間の事業内容です。当初は7月にミャンマーでキックオフミーティングを実施後、ハンズオントレーニング、日本での受入研修、タイでご遺体を用いた研修を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で渡航は不可能となり、8月にZOOMを活用してキックオフミーティングを実施しました。9月にはオンライン用の機材を発注し、その後計3回のオンラインワークショップを実施しました。10月、11月には現地とオンラインでハイブリッド開催となった学会に双方より参加しました。また、ミャンマー現地での研修機会を増すために、当社の現地法人と医療法人石井会を中心に、NYGHにビデオトレーニングや手術を撮影するためのITインフラの導入、手技獲得のための研修用模型の設置、現地でのイベント企画、手術や研修のサポート等を行いました。

# 2020年8月 オンラインキックオフミーティング

**FUJIFILM**  
Value from Innovation

**NEVER STOP**  
Confidential

**Project to develop Oncology surgery team for Gastrointestinal Cancer in Myanmar**

FUJIFILM  
Kanagawa Cancer Center  
Ishii Hospital

August 27, 2020

**FUJIFILM**  
Value from Innovation

**Schedule**

**NEVER STOP**  
Confidential

Month	Location	Contents	Plan A
Jul.	Yangon - Yokohama	Online meeting	Today
Sep.	Yangon	Kick-off meeting Visiting the facilities in NYGH Lecture and Training -Details will be discussed	
Oct.	Yokohama, Tokyo		
Dec.	Bangkok		
Feb.	Yangon		

\*We decide whether we can program at the latest. In case it is still prohibited for lecture and training(Plan B)

**FUJIFILM**  
Value from Innovation

**Schedule**

**NEVER STOP**  
Confidential

Month	Location	Contents	Plan B
Jul.	Yangon - Yokohama	Online meeting	Today
Sep.	Yangon - Yokohama	On-line Lecture and Training -Details will be discussed	
Oct.	Yangon - Yokohama	On-line Lecture and Training (sep) Lecture of endoscopic/laparoscopic treatment Discussion using operation video recorded in Japan -Details will be discussed	

operation video recorded in  
-Details will be discussed

## 複数のスケジュール案を協議



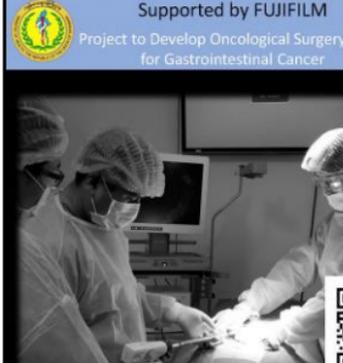
2020年8月のオンラインでのキックオフミーティングの様子です。NYGHからはAye Mon教授、Myo教授を始め、現地での中心メンバーのTun先生Kyaw先生にも参加頂き、今後の事業方針、特に新型コロナウイルス感染症に伴うスケジュール変更の可能性について、複数のプランを提示し協議を行いました。その時点では、新型コロナウイルス感染症でスケジュールが不透明ながらも、ヤンゴンでの研修・日本での受入研修に関しては可能な限り実施する意向が示され、内視鏡治療や手術手技等の具体的な研修内容の提案がなされました。

NEW YANGON GENERAL HOSPITAL  
KANAGAWA CANCER CENTER

1<sup>st</sup> On-line Workshop

Supported by FUJIFILM

Project to Develop Oncological Surgery  
for Gastrointestinal Cancer



Thursday  
**October 1<sup>st</sup> 2020**  
10:15 Myanmar Time  
12:45 Japan time

Organizer : Prof. Aye Mon  
Department of Surgery, New Yangon General Hospital

NEW YANGON GENERAL HOSPITAL  
KANAGAWA CANCER CENTER

2<sup>nd</sup> On-line Workshop

Supported by FUJIFILM

Project to Develop Oncological Surgery  
for Gastrointestinal Cancer



Thursday  
**December 24<sup>th</sup> 2020**  
10:15 Myanmar Time  
12:45 Japan time

Organizer : Prof. Aye Mon  
Department of Surgery, New Yangon General Hospital

NEW YANGON GENERAL HOSPITAL  
KANAGAWA CANCER CENTER

3<sup>rd</sup> On-line Workshop

Supported by FUJIFILM

Project to Develop Oncological Surgery Team  
for Gastrointestinal Cancer



Wednesday  
**February 10<sup>th</sup> 2021**  
12:30 Myanmar Time  
15:00 Japan time

Organizer : Prof. Aye Mon  
Department of Surgery, New Yangon General Hospital





**今年度事業でのオンラインワークショップ**

しかしながら、渡航を伴う研修は新型コロナウイルス感染症のため中止となり、計3回のオンラインワークショップが開催されました。

## 2020年10月 第1回 オンラインワークショップ



2020年10月の1回目のオンラインワークショップの様子です。総勢で約40名の参加がありました。ミャンマーからの医師、看護師は15名の参加がありました。神奈川県立がんセンターの佐藤医師は、腹腔鏡手術での機能温存手技や安全で手術時間が短縮できる連携手技、器械を用いた吻合などの講義を行いました。また同センターの外科看護師チーム3名は、ミャンマーでのチーム医療導入に必要なクリニカルパスや、早期離床、早期退院など術後チーム看護について動画を用いて講演を行いました。ミャンマー医師、看護師から多くの質問がある活発な質疑応答の場となりました。富士フィルムからは、新型コロナウイルス感染症の最新状況に基づいた、スケジュール変更や研修内容などを説明しました。

# 2020年11月 JDDW 2020 KOBE 2020年12月 The 75th General Meeting of the JSGS

JDDW2020 Homepageより

Program Schedule for December 11 (Nov. 2020, Day 1)

Time	Topic	Speaker	Language	Room
08:30-09:00	Registration			101
09:00-09:30	Registration			101
09:30-10:00	Registration			101
10:00-10:30	Registration			101
10:30-11:00	Registration			101
11:00-11:30	Registration			101
11:30-12:00	Registration			101
12:00-12:30	Registration			101
12:30-13:00	Registration			101
13:00-13:30	Registration			101
13:30-14:00	Registration			101
14:00-14:30	Registration			101
14:30-15:00	Registration			101
15:00-15:30	Registration			101
15:30-16:00	Registration			101
16:00-16:30	Registration			101
16:30-17:00	Registration			101
17:00-17:30	Registration			101
17:30-18:00	Registration			101
18:00-18:30	Registration			101
18:30-19:00	Registration			101
19:00-19:30	Registration			101
19:30-20:00	Registration			101
20:00-20:30	Registration			101
20:30-21:00	Registration			101
21:00-21:30	Registration			101
21:30-22:00	Registration			101
22:00-22:30	Registration			101
22:30-23:00	Registration			101
23:00-23:30	Registration			101
23:30-00:00	Registration			101

The 75th General Meeting of the JSGS Homepageより



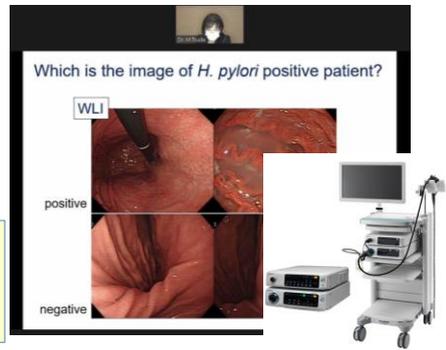
- ・日本とミャンマー双方よりオンラインを用いて学会に参加
- ・インターナショナルセッションを同時に共有しSNSで意見交換

2020年11月、12月には、新型コロナウイルス感染症のため、現地開催と並行してオンラインでも聴講可能となったハイブリット形式の学会を活用しました。JDDW 2020 KOBEとThe 75th General Meeting of the JSGSでは、日本側、ミャンマー側双方より、粘膜切除術（EMR）や粘膜下層剥離術（ESD）といった内視鏡治療、食道癌、胃癌、直腸癌に対する腹腔鏡手術、医療安全と多職種連携を重視したチーム医療について、計8つのインターナショナルセッションを共有し聴講することで理解を深めました。

## 2020年12月 第2回 オンラインワークショップ



国立病院機構函館病院  
津田医師による  
当社の BLI/LCI技術を用いた  
内視鏡診断の講演



2020年12月の第2回となるオンラインワークショップの様子です。ミャンマーからは約20名の医師、スタッフが参加し、国立病院機構函館病院の津田先生が、当社の内視鏡を用いた拡大観察や、当社のBLI/LCIといった画像強調技術を用いた診断法の講演を行いました。さらに神奈川県立がんセンターの井口先生は、先日の学会で共有した腹腔鏡手術のリンパ節郭清手技や吻合法などについて、これら手技のミャンマーでの臨床応用について現地医師とディスカッションをしました。質疑応答の時間では、ミャンマー人医師からの質問が集中し盛況な会となりました。

## 2021年1月 現地ワークショップ 研修 手術へのサポート活動

腹腔鏡手術  
研修用の  
骨盤モデル



NYGHで行われた現地医師による  
腹腔鏡手術をサポート



現地NYGHで開催された  
Myanmar Surgical  
Society Workshop

本事業で共有した  
腸吻合手技が紹介

新型コロナウイルス感染症で渡航が不可となったため、オンラインイベント関連のために設けられた備品費を活用し、当社の現地法人と医療法人石井会を中心に、ミャンマー現地で内視鏡及び腹腔鏡手術の手技向上のためのワークショップや研修、手術のサポートを行いました。腹腔鏡手術研修用の骨盤モデルは、第1回のワークショップで講演があった腹腔鏡手術の中で、もっとも修練が必要な中枢血管切離をシュミレーションをすることができました。本事業のワークショップや11月と12月に日本とミャンマーよりオンラインで参加した学会で共有した手術手技は、現地で開催されMyanmar Surgical Society Workshopで用いられました。さらにNYGHで現地医師にて施行された腹腔鏡手術をサポートし、本事業で導入したITインフラを用いて記録した手術動画は、第3回のワークショップでビデオクリニックの素材として用いました。

# 2021年2月 第3回 オンラインワークショップ



ミャンマーでの手術ビデオ

日本での手術ビデオ

神奈川県立がんセンター 佐藤医師によるビデオクリニック  
→ 腹腔鏡手術の同じ術式の同じ場面を比較検討

AGENDA

- Opening Remarks  
**Yuki Note**  
[Fuji Film]
- Workshop 1  
Preoperative preparation in the surgical ward  
**Yuka Kaiga**  
**Yuya Yoshinaga**  
[Kanagawa Cancer Center]
- Workshop 2  
Laparoscopic resection  
Video clinic  
**Sumito Sato**  
[Kanagawa Cancer Center]
- Closing Remarks  
**Prof. Aye Mon**  
[New Yangon General Hospital]

ELUXEO®  
Fujifilm's latest advancement in intraoperative enhanced endoscopy

Pre-Operative Nursing Care

- Pre-Operative Preparation
- Stoma Site Marking

神奈川県立がんセンター 看護師チームによる術前看護の講演

個人個人によるオンライン参加

2021年2月に開催した3回目のオンラインワークショップです。新型コロナウイルス感染症、2月1日に起きたミャンマー政変のため、本ワークショップは個人個人でのオンライン参加、さらにクラウド上にプレゼンテーションを保存しオンデマンドで参加できる形式で開催しました。神奈川県立がんセンターの佐藤医師より、ミャンマーで施行された手術ビデオを評価し、日本で施行された同じ術式同じ手術と比較検討するビデオクリニックを実施しました。手術をより安全にスムーズに施行し、かつ術後の機能を温存するための要点について指導しました。また看護師チームは、第1回の術後のチーム看護につづき、今回は術前のチーム看護について動画を用いて講演を行いました。後日、電子メールにてワークショップでの質問や問題点について議論しました。

## 2021年2月 協力覚書の締結

### Confirmation Letter of the Project to Develop Oncological Surgery Team for Gastrointestinal Cancer

Based on the Project to Develop Oncological Surgery Team for Gastrointestinal Cancer (hereafter referred to as "the Project") from 2019 to 2021, the Project members (FUJIFILM Corporation, FUJIFILM Myanmar Limited, NEW YANGON GENERAL HOSPITAL, Kanagawa Cancer Center, Ishii Hospital) confirm that we will aim at further strengthening the cooperation in the field of "Developing Surgical Oncologists for Gastrointestinal Cancer."

This is the letter to confirm mentioned above by the behalf of the project members in Myanmar, **FUJIFILM Myanmar Limited** (hereafter referred to as "FUJIFILM") and **NEW YANGON GENERAL HOSPITAL** (hereafter referred to as "NYGH"), with witness of FUJIFILM Corporation, Kanagawa Cancer Center, and Ishii Hospital.

Any activities undertaken pursuant to this Confirmation Letter are based on a spirit of cooperation and reciprocity that is intended to be of mutual benefit to related parties, as described as follows:

1. The project has implemented Project to develop Surgical Oncologists for Gastrointestinal Cancer in Myanmar in the past two years together supported by Ministry of Health, Labor and Welfare and National Center for Global Health and Medicine, Japan.
2. The project wishes to continue their collaboration in coming years and further strengthen their relationships with the project members.
3. The project shall facilitate the following activities with other organizations above.
  - (1) Clinical collaboration for the treatment of gastrointestinal cancer.
  - (2) Research and education about gastrointestinal cancer.
  - (3) Exchanges of academic information and materials.
  - (4) Exchanges of medical staffs and specialists.
  - (5) Cooperative research
  - (6) Other activities mutually decided
4. Any specific activities, related to those listed above, will be carried out after consultation between the project members, and their concerned institution faculties or departments, as necessary.
5. This letter is intended solely as a basis for further discussion and shall not bind the project members to any legal, financial commitment.

1/2

FUJIFILM Myanmar Limited

  
Mr. Yoshikazu Ikoma  
Managing Director  
FUJIFILM Myanmar Limited

Dated: 10 Feb 2021

in the presence of (Witness)



Dr. Sumio Sato  
Kanagawa Cancer Center

in the presence of (Witness)



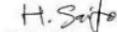
Mr. Masaomi Hoshino  
Ishii Hospital

New Yangon General Hospital

  
Dr. Aye Mon  
Professor  
Department of Surgery  
New Yangon General Hospital

Dated: 08/2/2021

in the presence of (Witness)



Mr. Hiroaki Saito  
Manager, Healthcare Business  
Development Office and Medical  
Systems Business Division,  
FUJIFILM Corporation

2/2

3回目のオンラインワークショップの終了時には、本事業の関連機関が今後も引き続き連携しこの活動を継続していくための協力覚書が締結されました。

## この1年間の成果指標とその結果

	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画(具体的な数値を記載)	①クリニカルパスと周術期のチーム医療について参加者の80%が理解 ②BLI/LCIを用いた内視鏡診断、内視鏡治療について参加者の80%が理解 ③腹腔鏡手術の機能温存、連携手技、専門器械を用いた手技について80%が理解	①腫瘍外科チームで現地患者5名の周術期管理を経験 ②当社のBLI/LCI技術を用いた内視鏡検査20例 ③当社の腹腔鏡にて手術5例を実施 ④新規内視鏡医2名、新規腹腔鏡医を1名輩出	①当社の内視鏡機器、腹腔鏡機器のミャンマー国内での販売数の増加 ②ミャンマーでの内視鏡検査数の増加と、腹腔鏡手術数の増加。手術の質の向上と術後在院日数の短縮 ③国際学会でのワークショップ開催、ミャンマーでのがん対策計画への参加、治療ガイドラインへの導入
実施後の結果(具体的な数値を記載)	①ワークショップ後のテストで84.3%の参加者が理解していた ②ワークショップ後のテストで100%の参加者が理解していた ③ワークショップ後のテストで100%の参加者が理解していた プレ・ポストテストにて平均30.9%の点数向上を認めた	①本研修で得たチーム医療の知識を用いて周術期管理を5例実施 ②本研修で得たBLI/LCI技術や内視鏡手技の知識を用いて内視鏡検査を10例実施 ③本研修で得た腹腔鏡手術の知識や手技を用いて手術を3例実施 ④新規内視鏡医1名、新規腹腔鏡医を2名輩出	①内視鏡機器は当初の想定ほど販売は伸びておらず、腹腔鏡機器の認可と販売には至らなかったが、本事業を通じた有用性訴求ができており、来年度以降の拡大が期待される ②内視鏡検査数および手術数は増加し質の向上を認めた。在院日数短縮までには至っていないが、今後の改善が期待できる ③学会ワークショップにて本事業で紹介した技術が用いられ各課題に貢献できた

本事業における成果指標とその結果です。当初本邦研修参加者に設定したアウトプット指標、アウトカム指標は、新型コロナウイルス感染症にて研修を実施できなかったため未評価です。現地研修の対象者に設定した指標を提示しました。今年度から開始されたチーム医療は、目標の80%以上の参加者での理解が確認できました。昨年度から内容を発展させた内視鏡研修、腹腔鏡手術研修においては参加者全員が理解することができ、プレ・ポストテストで平均で約30%の向上を認めました。アウトカム指標としては、本事業で得た知識を用いてNYGHでチーム医療、内視鏡検査、腹腔鏡手術が実施され、新しい内視鏡医、腹腔鏡医が輩出されました。

インパクト指標についてですが、本事業で当社の同国における内視鏡機器販売は長期におよぶロックダウンの影響もあり、当初の想定程は伸びず、また、腹腔鏡機器については、ミャンマーでの認可と販売には至りませんでした。しかしながら、本事業で紹介した技術がミャンマー国内の学会ワークショップで用いられるなど、本事業での当社の幅広い活動は消化器がんの治療成績の改善と向上に貢献したと考えており、来年度以降の拡大が期待されます。

## 今年度の相手国への事業インパクト

### 医療技術・機器の国際展開における事業インパクト

- 本事業で紹介し導入した内視鏡および腹腔鏡手術の手法や、チーム医療への考え方は、ミャンマーでのがん対策計画やガイドラインでの採択には至っていない。しかし、当社のBLI/LCIの画像強調技術、高解像度腹腔鏡を用いてがんを切除し適切に再建するための手法、早期離床や在院日数を短縮できるチーム医療の知識は、国内で開催されたワークショップや現地での研修で採用されはじめ、徐々に浸透してきている。ミャンマー各地域の主幹病院を関連病院として有するヤンゴン第一医科大学からの評価も高い。これら技術は、今後作成されるガイドラインを含めミャンマー国内での幅広い普及が期待できる。
- 本事業で紹介した当社の腹腔鏡機器については来年度以降の認可見込みで、今年度は購入までに至っていない。ただ、ミャンマー国内での当社機器への評価、期待度は非常に高く、今後は販売数の増加が見込まれる。

### 健康向上における事業インパクト

- 事業で育成した保健医療従事者(延べ数): 40名  
日本で講義・実習・セミナーを受けた研修生の合計数 : 0名  
相手国で講義・実習・セミナーを受けた研修生の合計数 : 20名  
遠隔システムを用いた講義・実習・セミナーを受けた研修生の合計数 : 20名
- 期待される事業の裨益人口(延べ数)

内視鏡検査 診断能の向上	→ 1年間に内視鏡検査を受ける患者数	約600名
腹腔鏡手術 術後成績改善	→ 1年間に腹腔鏡手術を受ける患者数	約200名
周術期チーム医療 在院日数短縮	→ 1年間に腹腔鏡手術を受ける患者数	約200名

14

今年度の相手国へのインパクトですが、本事業での医療技術は、ミャンマーでのがん対策計画やガイドラインの採択までは至っておりません。ただ、ミャンマー国内に多くの関連病院を持つヤンゴン第一医科大学での評価は高く、国内のワークショップなどでも紹介され、今後は幅広く普及することが期待できます。ミャンマーでの当社の医療機器の評価は高く、腹腔鏡機器は、来年度の認可を待って販売が開始される予定です。多くの施設での導入が期待されます。

健康向上におけるインパクトですが、今年度の事業ではNYGHを中心に、医師、看護師等の保健医療従事者約40名に対して研修を行いました。新型コロナウイルス感染症のため研修内容が変更になり、育成した医療従事者は、当初の予定よりも少なくなりました。しかしながら、これらの医療従事者を通じて、NYGHなどミャンマー国内で医療を受ける年間1000名程度の患者さまの裨益に繋がると考えております。

## これまでの成果(事業が複数年継続している場合は、各年度の成果を含めて下さい)

### 2019年度

- ・ ミャンマー側は日本式医療を経験し、また、当社はミャンマー国内の医療の現状を理解し把握できた。双方間に信頼と協力関係を構築することができた。
- ・ 内視鏡診断、腹腔鏡手術の基本的な知識と技術を理解し習得することができた。
- ・ 当社の内視鏡機器の購入があり、腹腔鏡機器については、ミャンマー国内で初めて当社の機器を用いたワークショップを開催できた。

### 2020年度

- ・ 昨年度の基本的な知識を深めることができた。さらにBLI/LCIといった内視鏡診断の最新の知識、機能温存や手術時間短縮へ必要な腹腔鏡手術のアドバンス技術を理解することができた。
- ・ 今年度は、これらの新しい治療を受けた患者さまに、的確な医療を提供するチーム医療についての新しい研修を開始し、早期回復のための周術期管理を理解することができた。
- ・ 本研修で用いた、これらの知識や技術が国内学会のワークショップで紹介された。
- ・ 本事業の当社活動は現地で高く評価され、今後の研修における協力覚書を締結した。

## 今後の課題

- ・ 昨年度の内容を発展させた知識は技術は、ミャンマーの研修生に理解され深く浸透したが、新型コロナウイルス感染症の影響で、本事業で実施予定であった実技実習はできなかった。そのため、これらの知識と技術の十分な手技習得までには至らなかった。
- ・ これから渡航困難な状況が継続した場合でも、新しい手技が習得できるようなオンラインを活用した新しい研修体制の構築が望まれる。
- ・ 内視鏡治療、腹腔鏡手術の研修機会を確保、継続的な人材育成、現地スタッフが自立的に治療を提供できる環境整備が今後の課題である。がん対策計画や治療ガイドライン作成への参画も目指す。

15

昨年度から始まった本事業は、今年度はこれまでの内容を発展させ、内視鏡、腹腔鏡手術についてさらに専門性の高い知識と技術を導入することができました。さらに今年度は、周術期に適切な医療を提供するためのチーム医療について、現地の看護師などコメディカルを対象に新しい研修を開始しました。これらの内容は、現地で開催された学会のワークショップで紹介され、今後の当社医療機器の販売促進に繋がると考えています。これらの活動はNYGH、ヤンゴン第一医科大学に高く評価され、今後研修を継続していくための協力覚書が締結されました。

今年度の事業では、知識や手技の理解はオンラインワークショップで得られたものの、新型コロナウイルス感染症の影響で渡航を伴う実技実習は中止となり、十分な実践的な手技の習得までには至りませんでした。これからは、このような渡航困難な状況でも研修が継続できる実施体制を構築することも大切だと考えてます。今後は、現地で継続的な人材育成を行うためにも、内視鏡治療、腹腔鏡手術の研修機会を確保し、自立的に治療を提供できる環境整備が課題と考えています。また同時に、ミャンマー国内でのがん対策計画やガイドライン作成にも継続的かつ積極的に参画していきたいと考えます。

展開推進事業の目的に照らして、将来の事業計画が見込まれば記載して下さい。

「我が国の医療制度に関する知見・経験の共有、医療技術の移転や高品質な日本の医薬品、医療機器の国際展開を推進し、日本の医療分野の成長を促進しつつ、相手国の公衆衛生水準及び医療水準の向上に貢献することで、国際社会における日本の信頼を高めることによって、日本及び途上国等の双方にとって、好循環をもたらす。」

事業のインパクト(医療技術移転の定着、持続的な医療機器・医薬品調達)につながるように事業の展望を具体的に描いてください(自由形式)。

### 医療技術定着の考え方

- 本事業での技術研修拡大
- 現地での研修機会の確保と人材育成
- ヤンゴン第一医科大学を中心とした関連病院への伝播
- ミャンマーでの学会やワークショップを通じた技術の普及
- ミャンマーでのがん対策計画、治療ガイドラインへの策定
- 現地のスタッフと医療資材で、適切な医療を国民に提供
- ミャンマーでの消化器がんの医療水準の改善に貢献

### 持続的な医療機器・医薬品調達

- 本事業で当社の医療機器の性能とミャンマーでの有用性を証明
- ミャンマーでの学会やワークショップで発信
- 医療機器の修理・保守体制の整備と、ミャンマー国内の販売網の構築
- ミャンマーでの継続的な新規調達の入札案件の獲得
- 当社医療機器のミャンマー国内での普及率の上昇
- ミャンマーでの消化器がんの医療水準の改善に貢献

16

最後は、将来の医療技術定着の考え方です。本事業は、昨年度より、NYGHとヤンゴン第一医科大学の協力下で研修を展開して参りました。今後も研修の対象や内容を順次拡大していき、現地での人材育成を継続することが出来ればと思います。その後は、これらの知識や技術を、ヤンゴン第一医科大学の関連病院から各地に伝播し、さらに国際学会やワークショップを通じて普及させ、ミャンマーでのがん対策計画、治療ガイドラインへの策定、現地スタッフが自立的に医療を提供できるようになることを期待します。これらの活動が、消化器がんにおけるミャンマー全体の医療水準の改善に貢献できると考えます。

持続的な医療機器・医薬品調達については、本事業を通じて当社機器の性能と有用性を証明し、学会やワークショップで発信することで幅広く認知されることを期待します。その後は、ミャンマーでの販売網と保守サポート体制を構築し、新規入札案件を継続的に獲得したいと考えます。当社の医療機器の幅広い普及は、ミャンマー国内における消化器がんの治療水準の向上に貢献でき、日本とミャンマーの相互利益に繋がると考えております。